

目地漆喰へのカビ分離株接種試験概要について

高鳥浩介 木川りか 佐野千絵

高松塚古墳石室および周辺部目地漆喰の暗色化がカビによるものかどうか検討することを目的として、カビの接種試験を行っている。

目地漆喰

未滅菌試料 提供されたままの試料

- 1) 天井石 2-3 間 上面目地漆喰⑥9-42-1 070419
- 2) 天井石 3-4 間 隙間内漆喰② 9-65 070404

滅菌試料 提供された試料を滅菌

- 1) 天井石 3-4 間 隙間内漆喰東半部 9-64 070404

供試カビ

高松塚古墳石室周辺由来の 6 種カビを用いる。

- 1) *Penicillium paneum* TM789 (石室、2006 年 3 月 10 日)
- 2) *Penicillium corylophilum* TM788 (石室、2006 年 3 月 10 日)
- 3) *Trichoderma* sp. TM792 (取合部、2006 年 5 月 17 日)
- 4) *Gliocladium roseum* TM795 (石室、2006 年 3 月 10 日)
- 5) *Fusarium solani* TM793 (取合部、2006 年 3 月 10 日)
- 6) 暗色系 *Acremonium* sp. TM791 (石室、2006 年 5 月 17 日)

ポテトデキストロース寒天培地で前培養し、界面活性剤で孢子液を調製

試験環境

18±2℃、相対湿度 96%以上

試験法

- (1) 約 2-3cm 片とした未滅菌目地漆喰および滅菌目地漆喰を準備
- (2) 底部を湿性状態にした深型ガラスシャーレ (径 9cm) を準備
- (3) 深型シャーレに目地漆喰を置き、その中央部に孢子液を約 1ml 接種
- (4) 試験環境 (18±2℃、相対湿度 96%以上) におき、定期的に目地漆喰の暗色化を観察

試験結果の記録

(1) 目視によるカビの発生度観察

未滅菌目地漆喰および滅菌目地漆喰のカビの発生を写真等で記録

(2) 直接鏡検によるカビ発生の観察

未滅菌目地漆喰および滅菌目地漆喰のカビの発生を顕微鏡写真等で記録

結果

現在試験は継続中である。試験環境条件下で経過観察しているが、一部のカビで発生が確認されつつある。カビにより暗色化が起こっているかどうかさらに観察を進めている。

表 試験に用いたカビと目地漆喰

カビ		目地漆喰*	
		未滅菌	滅菌
<i>Penicillium paneum</i>	TM789	A	C
<i>Penicillium corylophilum</i>	TM788	A	C
<i>Trichoderma</i> sp.	TM792	A	C
<i>Gliocladium roseum</i>	TM795	A	C
<i>Fusarium solani</i>	TM793	B	C
<i>Acremonium</i> sp.	TM791	B	C

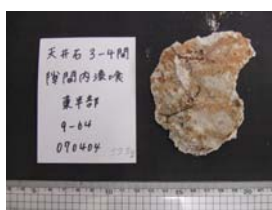
* 目地漆喰

A：天井石 2-3 間 上面目地漆喰⑥9-42-1 070419

B：天井石 3-4 間 隙間内漆喰② 9-65 070404

提供された試料を滅菌

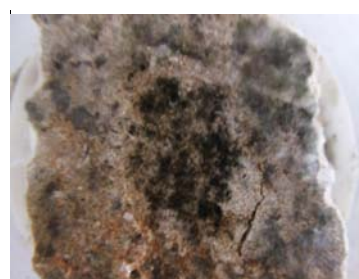
C：天井石 3-4 間 隙間内漆喰東半部 9-64 070404



未滅菌目地漆喰 暗色系 *Acremonium* sp.接種 暗色化試験例



2 週間



4 週間